

桐ヶ丘遺跡緊急調査報告

所在地 田川市大字夏吉197-38
調査期日 昭和62年9月4日・5日
調査者 田川市教育委員会

桐ヶ丘遺跡緊急調査報告

所在地 田川市大字夏吉197-38

調査期日 昭和62年9月4日・5日

調査者 田川市教育委員会

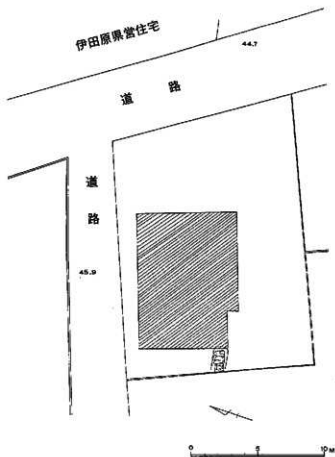
1. はじめに

昭和62年9月4日の朝、田川市夏吉桐ヶ丘の住宅建設現場で、汚水管理設中に石棺らしきものを発見したと市教委に届け出があった。早速、現地確認を行ったところ、地表から約40cmの所に蓋石の一部が露出していた。土地所有者及び関係者と協議を行い、午後より調査を行うこととなった。すでに基礎工事が終了しており、汚水管理設個所にトレンチを入れたが他に遺構は検出されなかった。図面製作後、石棺は石炭資料館へ移設保存することにした。

なお、石棺搬出にあたっては、西川工務店の方々に多大な御協力を受けた。記して謝意を表します。

2. 位置と環境(第1-2図参照)

彦山川に沿ってのびる丘陵や台地上には数多くの遺跡が分布している。当遺跡もその一つである。遺跡は彦山川と余辺川に挟まれた標高40~50mの台地上に位置し、約200m西方にはセストノ古墳(県指定)がある。この台地北端の上の原は銅剣出土で知られているが、市内で数少ない縄文時代の遺物を出土する遺跡でも



第(1)図 遺構周辺図(1/400)



第(2)図 周辺遺跡分布地図

ある。弥生時代の遺跡は鶴西公園付近まで点在しているが詳細は不明なものが多い。下伊田倉ヶ原遺跡では、貯蔵穴や住居址が調査され、銅劍先等の貴重な資料が出土している。古墳時代に入ると遺跡数は増加する。田川市伊加利の箱式石棺からは「長宜子孫」銘連環文鏡、鉄砲町大塚塚からは鏡、銅劍等が出土している。前者に類似する鏡を出土した遺跡としては山川郡香春町の宮原遺跡、方城町の三本松古墳があり、いずれも箱式石棺からの出土である。また田川市大字位登字日渡の位登古墳は箱式石棺を主体部とする前方後円墳である。その他、数多くの円墳、横穴墓の存在が知られてはいるが、実態の不明なものが多く今後の調査がまたれる。

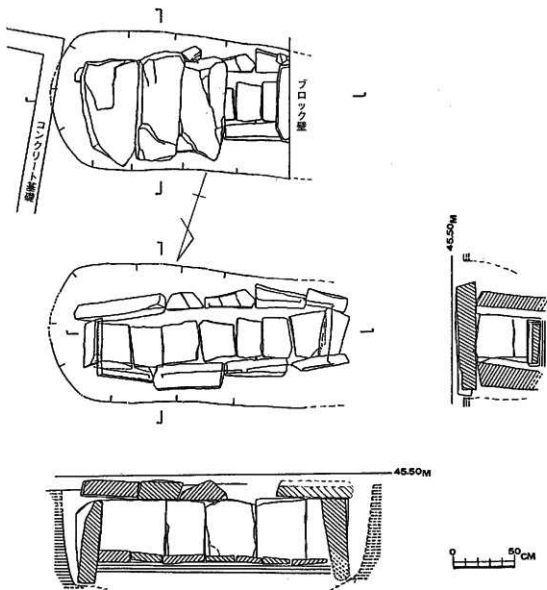
3. 遺構と遺物 (第3-4図・表1参照)

地表から約40cmのところでは箱式石棺墓1墓を検出、蓋石の1部は盗掘のため紛失していた。墓域は1部確認できなかったが長さ約2.5m幅約1.1m、深さ約0.8m程の隅丸長方形と思われる。棺材は全て花崗岩で、内側等に手を加え、平ならしめた跡が若干窺える。側石は北側4枚、南側5枚、両小口には1枚の計11枚の厚手の板石で組まれており、両小口は側壁で伏まれる形態である。石と石の透き間には粘土等の目張りは認められなかった。床面にはほぼ同じ大きさの方形の板石7枚が1列に敷き並べられており、棺内には赤色顔料が塗布されていた。木炭5枚あったと思われる蓋石は長方形に近い厚手の花崗岩の板石が用いられており、その他に玄武岩の小石2個が付接していた。

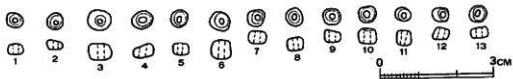
棺内法は蓋石付近で長さ175cm、幅は東端で32cm、中央で44cm、西端で40cmを測るが、床石付近では長さ187cm、幅は東端で37cm、中央で52cm、西端は側石を外側よりに据えており50cmと空間は広がっていた。床面から側石上端部までの高さは東側で40cm、西側ではそれより8cm低くなっていた。これは西側の床石が東側より低く据えられているためである。主軸方向はN-72°Wを示す。頭位は幅の広い西側であったと思われる。

表1 ガラス玉計測表 (単位mm)

No.	色	厚さ	径	No.	色	厚さ	径	No.	色	厚さ	径
1	濃紺色	3.5	4.8	7	濃紺色	4.6	5.1	13	濃紺色	3.4	5.0
2	〃	3.1	4.6	8	〃	3.9	4.9	14	〃	6.0	5.5
3	〃	4.6	6.4	9	〃	3.2	4.8	15	グリーン・ブルー	5.0	5.5
4	〃	4.5	5.9	10	〃	4.5	5.0	16	濃紺色	—	—
5	〃	3.1	4.5	11	〃	4.1	4.4	17	〃	—	—
6	〃	3.5	4.4	12	〃	3.5	4.1	18	〃	—	—



第(3)図 箱式石棺実測図 (1/30)



第(4)図 ガラス製小玉実測図 (1/1)

棺内は盗掘により荒らされ、土が充満していた。遺物は棺内よりガラス製小玉18個（破片3個体分を含む）を検出した。2個は調査中に西側寄りの覆土より、他の14個は上げ土を篩にかけての検出のため原位置等は不明である。色調は濃紺色で艶がなく表面は微細な傷で覆われている。大きさは不揃いで径は最大6.4mm、最小4.1mm、厚さ最大4.6mm、最小3.1mm、孔は円形、楕円形のものがあり、最大径1.9mm、最小径0.9mmを計る。

4. おわりに

今回、調査を行った箱式石棺はこの地方では珍しい、底に板石を並べ敷く構造であった。残念ながら盗掘を受けており時期決定となる遺物に乏しいが、弥生時代後期から古墳時代にかけてのものと思われる。昭和27年頃、市営住宅建設の際、同様な石棺が数ヶ所で発見されたと言われており付近に石棺墓群の存在が考えられるが、家が建て込んでおり調査は困難である。

石棺群の調査例として田川郡香春町大字香春に所在する長畑遺跡があり、形態の類似性より古墳時代前期のものと思われる。

当石棺は幸にして石炭資料館にて復元、展示することとなった。文化財に対する認識と理解及び、田川の古代史研究の資料として役立ててもらえれば幸いである。

（文責・田川市教育委員会臨時職員 上野 智裕）

注①：川速昭人・伊崎俊秋「長畑遺跡発掘調査報告」（『郷土史誌 かわら』第16集）昭和56年12月



①遺跡遠景（セソノ古墳より）正面の建物は伊田原県営住宅



②箱式石棺蓋出土状態



④箱式石棺蓋 (南側より)



③箱式石棺蓋出土状態 (南側より)



⑤床石の状態 (東側より)